

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No417
(新著の紹介)

『誤解だらけの探究学習ー「手応えがない」ときの25のヒント』酒井淳平先生(立命館宇治中学校・高等学校)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



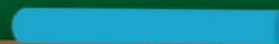
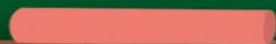
酒井淳平

さかい じゅんぺい

立命館宇治中学校・高等学校 数学科教諭

立命館中学校・高等学校を経て2008年4月より現職。
2025年度～福井大学連合教職大学院大学院生。
2025年10月～ 中央教育審議会 初等中等教育分
科会教育課程部会 生活、総合的な学習・探究の時間
ワーキンググループ委員

単著『高等学校 新学習指導要領 数学の授業づくり』（明治図書，2022），『「探究」の現在地とこれから 高等学校 探究時代のキャリア教育と教科学習のデザイン』（明治図書，2025），『誤解だらけの探究学習』（明治図書，2026）など





酒井淳平 (著) 『誤解だらけの探究学習ー「手応えがない」ときの25のヒント 明治図書 (2026年7月刊行)

第1章 その探究、なぜ手応えが感じられないのか？

- 01 探究が広がったのに、なぜ手応えがないのか
- 02 探究の目的がすり替わっていないか
- 03 本当に生徒が学んでいる瞬間とは
- 04 これからの探究に必要な視点

25の誤解一覧

1. 本質の誤解

- ① 探究は新しい学びで、特別なイベント
- ② 探究は優秀な生徒だけができるもの
- ③ 探究には正解やゴールがある
- ④ 探究は社会の役に立つ成果や提案を出さなければいけない
- ⑤ 探究は「研究型」など決まった型で行う学習

2. ゴールや成果物、評価についての誤解

- ⑥ 探究で大切なのは、成果物で受賞すること
- ⑦ 探究では全員が同じ水準の完成度を目指すべき
- ⑧ 成果物の質が低いと探究は失敗である
- ⑨ 探究の評価は客観的にルーブリックなどではないといけない
- ⑩ 探究の成果は、短期で目に見える形で評価できる

3. 学び方、プロセスの誤解

- ⑪ 探究は活動すれば進む学習である
- ⑫ リフレクションは反省、時間があれば実施するもの

- ⑬ 問い（テーマ）は一度決めたら変えてはいけない

⑭ 探究が調べ学習で終わったらダメ

- ⑮ プロジェクトは行動すればよく、論文は調べればよい

4. 教師の役割の誤解

- ⑯ 教師はすべて教え込むべき／教師が教えないほどよい
- ⑰ 教師は正解を持っていないといけない
- ⑱ 教師の専門性とは、研究能力や指導技術のことである
- ⑲ 外部とつながれば探究はうまくいく
- ⑳ 探究では、教師は見守るだけでよい

5. 教科との接続

- ㉑ 探究は「総合的な学習（探究）の時間」だけの活動
- ㉒ キャリア教育は（特別活動が中核の時間であり）、総合とは別物
- ㉓ 教科でも無理にでも探究をしないとけない
- ㉔ 総合と教科の接続は、題材を関連させること
- ㉕ 探究は全教員が同じ意識・理解を持たないとできない

それではご覧ください



教育を次のステージへ

～探究の誤解をほどこき、探究観をアップデート～

立命館宇治中学校・高等学校

酒井 淳平

中教審（生活、総合）ワーキングの翌日のニュース

小中の総合的な学習の時間、「探究」統一へ

7/3(金) 16:50 配信

177



次期学習指導要領を検討する中教審の作業部会が3日開かれ、文部科学省は小中学校の「総合的な学習の時間」の名称を高校と同じ「総合的な探究の時間」に統一する方針を示した。小中高で一貫した教科目標を定め、探究活動を深める狙い。

探究（総合）の現在地

平成27年度（2015年度）学習指導要領実施調査
「**高等学校** 総合的な**学習**の時間」生徒質問紙調査

「自分の考えを分かりやすくまとめたり発表したりしている」
に肯定的な回答をした高校生は何%？

ヒント：小学校56.4%、中学校41.8%

→答えは**34.0%**（教員は79.8%が肯定的な回答）

10年前は発表さえも少数だった（＝今と違う景色）

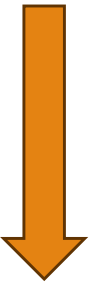
今世紀を俯瞰すると（主に高校目線）

2000年度～ 小中高で段階的に総合的な学習の時間がスタート
（高校での実態は、 、 、 ）

2002年度～ スーパーサイエンスハイスクール事業が始まる
（一部の高校では本格的な探究学習が実践される）

2020年度～ 現在の学習指導要領が実施。高等学校では2022年度から
総合的な探究の時間がスタート

一部



全体

（文科省の調査結果が出れば状況が数字で把握できるでしょうが）

現場の頑張りで次のステージに来た！

学校現場のリアル？

探究をめぐる
様々な思い

高校生が「探究」で商店街を分析し「未来図」を提言 未来を変える力を育む大阪府立柴島高校の挑戦

高校生の活動例



教育話題

高校先生向け

探究担当

探究学習

学校ルポ

2026.01.23



うーん 5日前

⊗ 非表示・報告

教師の負担がえげつない。探究の内容を考えるのが大変。自分の教科の何倍も時間使って授業計画立ててます。現場に丸投げきつい。働き方改革というなら、「探究」や「観点別評価」などがちゃんと機能しているか、効果、メリットはどれだけあるのかを調べて欲しい。現場の声をきいて、労力に見合わなければ無くして欲しいです。私はこの二つは見直すべきだと思ってる。

名称変更のニュース に対するコメント

▼ 返信 12件

😊 共感した
1046

😬 なるほど
31

😬 うーん
28



書籍の序章から

書籍は学校の
日常から始まります

ある日のこと。教員朝礼で、探究のコンテストの結果が共有された。
Gさんが、外部の探究コンテストで大きな賞を取ったらしい。

「**これからの時代、探究は大事です**。文科省も力を入れていますし、
学校としてもしっかり取り組んでいきましょう」。
教頭は、原稿を読むような調子でそう言った。拍手が起こり、
数人がうなずく。E先生も周りに合わせて手を叩いた。

その後の学年打ち合わせが終わると、職員室の空気が少し変わった気がした。
「Gさんすごいな」と誰かが言い、別の誰かが「教頭が探究と言いだしたか。
……**また忙しくなるな**」と小さくつぶやく。
そのどちらも、たぶん本音だった。

書籍の序章から

探究リーダーのA先生は、机に向かいながら、すでに次の予定を考えているように見えた。B先生はどこか誇らしげで、誰かに何か話したそうだった。その横でCは不機嫌な顔をしてあからさまに興味がなさそうだった。学年主任のD先生は、その様子を見て少し困った顔をしていた。

E先生は、その様子を見ながら、毎回同じ感覚になる。「**探究は大事だと思う。でも、**賞を取ったことがすごいと言われ、そのときに「探究が大事だ」という言葉が出ると、**何かが置き去りにされていく感じがする**」。それが何なのか、E自身もまだうまく言葉にできなかった。

探究は大事。でも何か違う。

書籍で伝えたかったこと

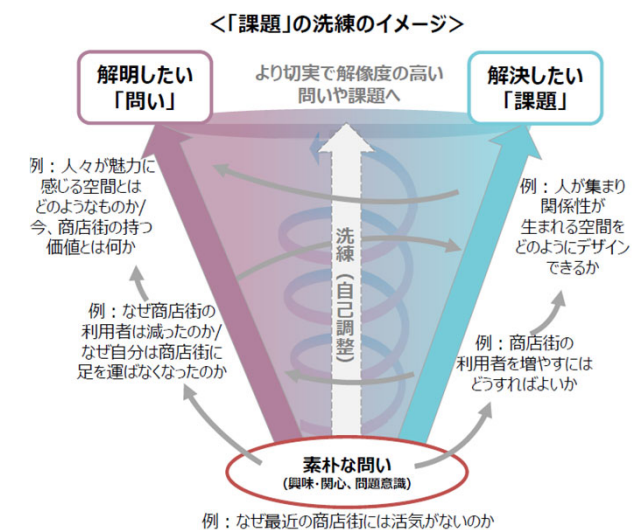
二項対立でも、誰かが悪いわけでもない。ただ誤解がある。

たとえば「誤解③探究には正解やゴールがある」

探究の成果は発表会や成果物で可視化されやすい
= 成果物や発表会が**ゴールに見える**

学校での各教科の学びには正解があるものが多い。
= **正解がある**と思い、正しい方向に導きたい。

しかし、探究の価値は学ぶ過程で問いが
変化し、広がり、更新されていくプロセスにある



25の誤解一覧

1. 本質の誤解

- ①探究は新しい学びで、特別なイベント
- ②探究は優秀な生徒だけができるもの
- ③探究には正解やゴールがある
- ④探究は社会の役に立つ成果や提案を出さなければならない
- ⑤探究は「研究型」など決まった型で行う学習

2. ゴールや成果物、評価についての誤解

- ⑥探究で大切なのは、成果物で受賞すること
- ⑦探究では全員が同じ水準の完成度を目指すべき
- ⑧成果物の質が低いと探究は失敗である
- ⑨探究の評価は客観的にルーブリックなどで行わないといけない
- ⑩探究の成果は、短期で目に見える形で評価できる

3. 学び方、プロセスの誤解

- ⑪探究は活動すれば進む学習である
- ⑫リフレクションは反省、時間があれば実施するもの

- ⑬問い（テーマ）は一度決めたら変えてはいけない
- ⑭探究が調べ学習で終わったらダメ
- ⑮プロジェクトは行動すればよく、論文は調べればよい

4. 教師の役割の誤解

- ⑯教師はすべて教え込むべき／教師が教えないほどよい
- ⑰教師は正解を持っていないといけない
- ⑱教師の専門性とは、研究能力や指導技術のことである
- ⑲外部とつながれば探究はうまくいく
- ⑳探究では、教師は見守るだけでよい

5. 教科との接続

- ㉑探究は「総合的な学習（探究）の時間」だけの活動
- ㉒キャリア教育は（特別活動が中核の時間であり）、総合とは別物
- ㉓教科でも無理にでも探究をしないといけない
- ㉔総合と教科の接続は、題材を関連させること
- ㉕探究は全教員が同じ意識・理解を持たないとできない

25の誤解一覧

1. 本質の誤解

- ①探究は新しい学びで、特別なイベント
- ②探究は優秀な生徒だけができるもの
- ③探究には正解やゴールがある
- ④探究は社会の役に立つ成果や提案を出さなければならない
- ⑤探究は「研究型」など決まった型で行う学習

2. ゴールや成果物、評価についての誤解

- ⑥探究で大切なのは、成果物で受賞すること
- ⑦探究では全員が同じ水準の完成度を目指すべき
- ⑧成果物の質が低いと探究は失敗である
- ⑨探究の評価は客観的にルーブリックなどで行わないといけない
- ⑩探究の成果は、短期で目に見える形で評価できる

3. 学び方、プロセスの誤解

- ⑪探究は活動すれば進む学習である
- ⑫リフレクションは反省、時間があれば実施するもの

- ⑬問い（テーマ）は一度決めたら変えてはいけない

⑭探究が調べ学習で終わったらダメ

- ⑮プロジェクトは行動すればよく、論文は調べればよい

4. 教師の役割の誤解

- ⑯教師はすべて教え込むべき／教師が教えないほどよい
- ⑰教師は正解を持っていないといけない
- ⑱教師の専門性とは、研究能力や指導技術のことである
- ⑲外部とつながれば探究はうまくいく
- ⑳探究では、教師は見守るだけでよい

5. 教科との接続

- ㉑探究は「総合的な学習（探究）の時間」だけの活動
- ㉒キャリア教育は（特別活動が中核の時間であり）、総合とは別物
- ㉓教科でも無理にでも探究をしないといけない
- ㉔総合と教科の接続は、題材を関連させること
- ㉕探究は全教員が同じ意識・理解を持たないとできない

ワークも作ってみました！

『誤解だらけの探究学習』読書ワーク

目的：自分の周りを客観的にとらえる。

時間：15～30分

(1) 25の誤解の中で最も気になった誤解は何ですか？

誤解番号：

理由：

(2) あなたの学校にある26番目の誤解は？（もし思いつけば1ページに記入）

(3) この誤解は自校のどんな場面で起きていますか？（具体例を書く）

『誤解だらけの探究学習』を学校の対話で使うための3つのワークアイデア

③ 管理職・推進チーム版 「探究の組織診断シート」

目的：個人ではなく学校構造を見る

時間：60分程度

(1) 現在、自校で特に強く現れている誤解はどれですか？ 上位3つ選択

(2) その誤解はどこで生まれていると思いますか？

(カリキュラム、評価、教員研修、進路指導など)

(3) その誤解を強化している学校文化はありますか？

(4) 誤解をほくために組織としてできることは何ですか？

(時間の確保、研修、評価改善、情報共有など)

(5) 1年後、どんな状態になっていたら成功ですか？

対話ツールにもなってほしい！

誤解には背景がある

善意から生まれた
誤解をほどく。
それこそが次に
進むために大切

⑭探究が調べ学習で終わったらダメ

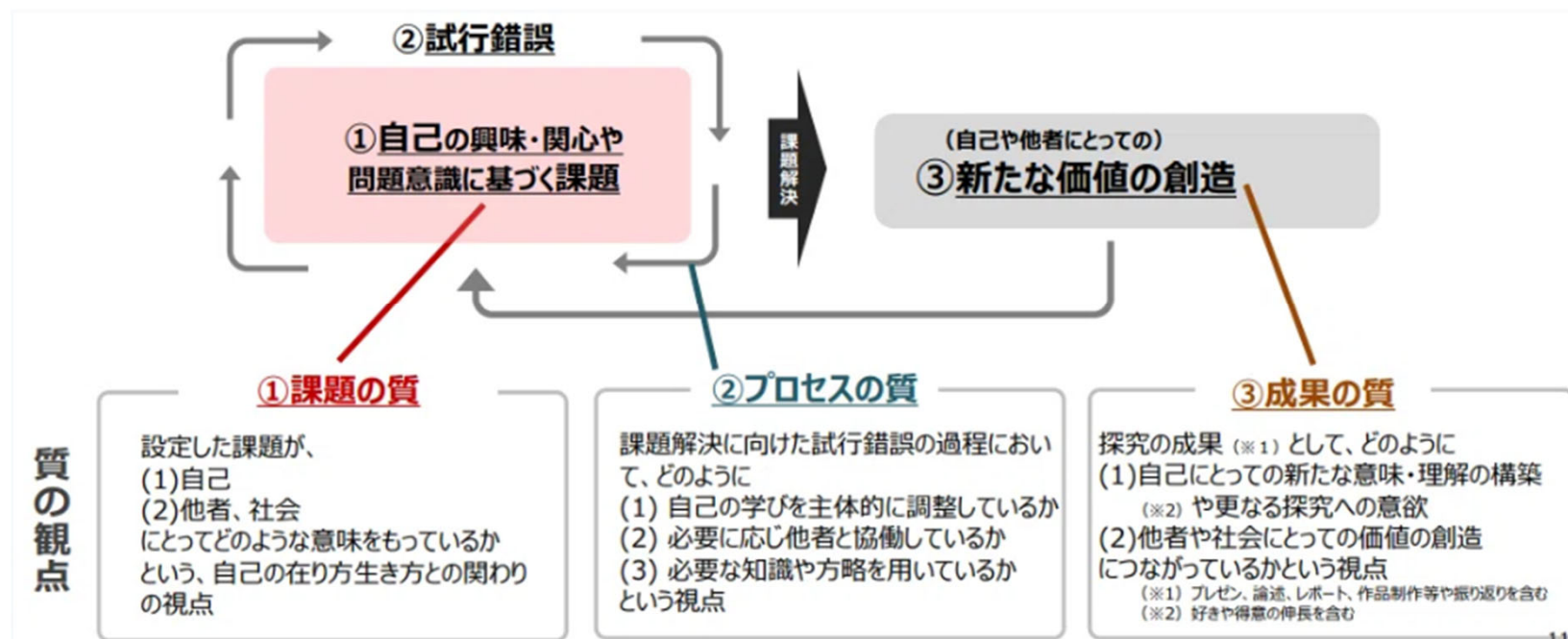
- ・ 確かに、調べて終わりでは学習が浅い
- ・ 行動や調査などをしたほうが深まるのは事実。
- ・ 新たな発見ができたらすごいのも事実
- ・ しかし、調べ学習は**探究の基盤**
- ・ 調べる中で、自分が深めたいことにも気づく = **探究の出発になる**

調べ学習で終わってほしくないという善意が、
調べ学習ではいけないという誤解になる。

探究を変えるのではなく教育を次のステージへ！

探究が広がってきた⇒教育を次のステージに⇒大切なのは**探究の質**！

中教審ワーキングでは、探究の質を課題の質・成果の質・プロセスの質で整理



探究を変えるのではなく教育を次のステージへ！

次のステージに進むとき大切なのは探究の質！

学校で探究の質を高めるには？

⇒生徒の主体性・教師の伴走・学校としての蓄積

⇒教師が何をするかではなく、何を見るか。「学びを見取る質」(成果でなくプロセスとか)

探究の質は（生徒の活動の質ではなく）教師の関わりの質が大きく影響する

⇒大切なのは教員の「探究観（学習観・評価観・教師観）のアップデート」では？

探究を変えるのではなく教育を次のステージへ！

探究観が含む3つの要素

- * 学びをどうとらえるか（教えてもらうのも？構築するもの？）
- * 教師はどう関わるか（教える？放任？伴走？）
- * 何を価値として評価するか（結果？プロセスや成長？）

まず大切なことは誤解をほどここと

25の誤解は「（探究の質を高めるための）教師の探究観」を
アップデートするための入口

探究を変えるのではなく教育を次のステージへ！

探究観のアップデートとは、子どもの学びをどう見るかを問い直すこと

- ・ 探究観のアップデート



学びをどう捉えるか、教師はどう関わるか、何を価値として評価するか

- ・ その第一歩が25の誤解をほどここと



- ・ 探究を変えるのではなく、教育を次のステージへ

これは新しい理論を身につけることではなく、教師として大切に
してきたことを、探究という視点からもう一度見つめ直すことでは？

溝上先生に聞いてみたいこと

探究が一定広がってきた今、次の課題は「方法」ではなく、探究観のアップデートでは？
（教師が児童・生徒の学びをどう見るか？）

学校現場では手応えのなさも同時に広がっているように思う。溝上先生目から見てどうか？
（方法の問題？教師の探究観の問題？）

誤解の裏には教員としての善意があると思う。
この点どう思うか？

